

<第 12号>

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部・
農学研究科
国際交流委員会
No.12 March 2012

みどり 緑のかけはし

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



きょうしゅう きたい 「共修への期待」

こくさいこうりゅう いんかいふく いんちよう
国際交流委員会副委員長
よねくら ひとし
米倉 等

国際交流委員会の副委員長をしている米倉です。今年の『緑のかけはし』の巻頭文の担当は副委員長だといわれて書くことになりました。資源生物科学専攻の国際開発学分野の所属で、合わせてヒューマンセキュリティ・プログラムの運営をしています。このプログラムの紹介を中心に書き記したいと思います。このプログラムは、前期・後期(修士・博士)課程を対象にして、他の研究科(環境科学、医学系、国際文化)の先生方と協力して実施しています。当農学研究科は Human Security for Food and Agriculture を担当しています。

ヒューマンセキュリティ・プログラムは、発展途上国を中心に問題となっている人間が人間らしく豊かで安心して暮らせる社会の構築のための教育と研究を課題として2005年にスタートしました。毎年各研究科で受け入れる院生は1~2名程度と小規模ですが、大学の国際化の一翼を担うべく、英語で授業が行われています。教育組織は、制度化、機関化され予算化されるのが日本の大学の特徴ですが、このような発想を排し、変化する国際社会の問題状況に弾力的な対応ができるよう、プログラムとして運営しているのが大きな特徴です。したがって教員も予算も格別な手当はなく、教員のボランティアな精神と外部資金の獲得を基本に運営しています。幸い今現在は、参加している4研究科が、授業実施のための事務局経費など基本的な運営経費を分担してくれています。さらに、日本の大学の国際化、留学生増加を目指すいわゆるグローバル30と称する事業から支援を受けています。

このプログラムの中では、インドネシアのブラウィジャヤ大学と共同して、修士のダブルディグリー・プログラムを行っています。農学研究科では、毎年2~3人の留学生を転入学生として1年間受け入れて、修士の学位を出しています。留学してくる学生は地方公務員が中心です。彼らの中には、首都のジャカルタから飛行機を乗り継いで2日がかりの辺鄙なところから来た学生もいましたが、英語のコミュニケーションは良くできました。カラオケが得意で、英語のポップスを大きな声量で見事に歌いきる歌唱力にはびっくりしました。カラオケ文化がそんなところまで浸透していることと、カラオケなのに日本語でなく英語に席卷されていることにも驚きました。カラオケを歌いながら楽しんで英語を勉強したようです。

ヒューマンセキュリティ・プログラムの一つの重要な特徴は、留学生と日本人学生がともに英語で学ぶ共修方式です。共に学ぶ日本人学生が大勢出現してこそ国際化ですが、残念なことにこのプログラムへの農学部からの日本人入学者はまだ一人しかいません。日本人学生にとっては英語のハードルが高いのがその一つの要因ですが、少しでも多くの農学部生が当プログラムに進学して留学生と共に学び研究してくれることを期待しています。日本の経済が相対的に縮小し、人口も減り、多くの日本企業が海外に活路を求めて日本を出ていく現実の中で、農学研究科の修了生

の多くも将来は日本の外で働かざるを得なくなると思います。留学生にしても、母語が英語でない人がほとんどで、英語学習には苦労したはず。そんな経験を日本人学生に伝えてくれたらよいと思います。何故か臆病になってしまった日本人学生を、留学生が大いに刺激して目を見開かせてくれたらと期待しています。共に学んだ青春の貴重な思い出と友情は、日本人学生にとっても留学生にとっても、一生にわたって大切な絆・かけはしになるはず。もちろん、英語だけが国際化の窓口ではありません。英語や日本語だけでなくさまざまな言語が、当プログラムの院生に止まらず、農学研究科のキャンパス全体に飛び交うようになったら良いと心から願っています。

留学生紹介

昨年4月・10月に新しく28名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

事項

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|----------|
| 1. 国籍 | 2. 在籍課程 (2012年3月現在) | 5. 出身校 | 6. 趣味・特技 |
| 3. 所属分野 | 4. 研究テーマ | 7. 自己紹介 | |

ハリニ セニカ ニッサンカ Harini Senika NISSENIKA



- スリランカ
- 学部1年生 (G30)
-
-
- Lyceum International School
- 映画鑑賞、旅行、楽しくて面白そうな新しいことに挑戦すること
- 私は動物が好きです。いつか、絶滅の危機に瀕した種を救うために何かできればと思っています。新しい事を学ぶのが好きなのですが、それら全てを身に付けるのは簡単ではありません。私は思いやりの気持ちと刺激を求める面を持っており、外へ出て、人と楽しくお付き合いするのも好きです。

本当に「学都」と呼ばれるにふさわしい街だとも思います。私は生物学、特にエコロジーと生物多様性の保全に関心があります。研究者になり、アカデミックキャリアを積むため大学で研究を続けることを希望しています。時間がある時は、音楽を聴いたり、本を読んだりピアノを弾いています。東北大学の農学部で学べるのがとても嬉しく、研究室に入り、皆さんと一緒に研究できる日が待ち遠しいです。

ゼイネップ スメイラアカン ZEYNEP SUMEYRAAKAN



- トルコ
- 学部1年生 (G30)
-
-
- DELIA SCHOOL OF CANADA
- スキー、物事を探求すること、行ったことのない国へ旅行すること、新しい言語を学ぶこと、読書
- 私は研究やイノベーションなどに関するたくさんの方に興味を持っているので、科学を常に身近に感じています。熱心でエネルギーで、新しい事を発見し、自分の人生に新たな息吹を吹き込むことが大好きです。そういった面からも、遺伝子について学び、科学者になる道を選んだことを嬉しく思っています。今、私は、自分がベストを尽くそうとすることへと前進し始めました。そして、思い描いている将来を決して諦めません。人間同士との付き合いからたくさんの方の事を得られるので、私は社会的ですし、

ギヨヌル ベグ メルヴェ GONUL BEGU MERVE



- トルコ
- 学部1年生 (G30)
-
-
- Yamanlar Science High school
- ピアノを弾くこと、絵を描くこと
- こんにちは。私はトルコのイズミールから来た Begu と申します。学部1年生です。仙台がとても気に入っており、

ひとと一緒に時間を過ごすこと、そして、オープンな心の持ち主が大好きです。

ヴェリサフィルマ ハスナリア アンドラウィナ
Verisafirma Hasnalina Andrawina

1. インドネシア
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -
5. Labschool Kebayoran Highschool
6. 映画・音楽鑑賞、旅行



7. はじめまして。私はインドネシアのジャカルタから来ました。ニックネームは ima (イマ) です。18歳です。2011年10月に日本へ来ました。今、日本語を勉強しています。よろしくお願ひします。

りゅう ゆう しゅう
羅羽舒

1. 中国
2. 学部1年生 (G30)
3. -
4. -
5. 東北育才学校高等部
6. 音楽鑑賞、ギターを弾くこと、歌をうたうこと、ドラマを見ること
7. 私は中学1年生の時に日本語を勉強し始めました。最初はただ日本語の勉強が好きだったのですが、その後、日本の技術や文化にも興味を持つようになり、高校生の時に日本へ留学することが決まりました。東北大学を選んだ理由は特になかったのですが、国立大学なので受験しました。AMB コースを選んだ理由は農学部に入りたかったことと、そして、G30であれば農学部に入学できたからです。今は大学に入ったばかりなので、これからの大学生活に期待しています。



しえ じん
謝靚

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 植物栄養生理学
4. 異なる温度における日印イネのバイオマス生産と収量の違いについて
5. 浙江工商大学
6. 登山、映画鑑賞
7. 謝靚と申します。伝統とハイテクが共存している日本での



生活を味わいたい、勉強したいという気持ちが強く、日本に留学しました。異文化に飛び込んで、各国からの留学生や多くの日本人と出会い、交流することで、自分にとって国際的な視野も広められると思います。どうぞ宜しくお願いします。

ちえん しい ゆう
陳絲宇

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 陸園生態学
4. 子牛における血中オキシトシンの個体差と行動との関係
5. 中国西南民族大学
6. 卓球
7. 日本に来てから既に1年が過ぎ、時間の経過が早いと感じています。この1年間、友人、先輩、先生方のお世話になり、自分の研究も順調に進めることができ、非常に充実した留学生生活を過ごしています。今後、更にいろいろ頑張りたいと思っておりますし、より楽しい留学生活を楽しみたいです。



しゅう しょう いん
周秀瑩

1. 台湾
2. 大学院博士前期課程
3. 機能分子解析学
4. 米油とパーム油の健康機能の比較
5. 台北医学大学
6. 水泳
7. 皆さん、こんにちは。私は台湾から来ました。人生を楽しみましょう！



しいあ ちんー ちんー
夏青青

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 生物共生科学
4. Relative importance of the red: far-red ratios and temperature fluctuation for seed germination of pioneer species of deciduous broad-leaf trees depending on seed size
5. 四川師範大学
6. 絵を描くこと、歌をうたうこと、バドミントン、旅行
7. 私は中国からの留学生です。現在、修士課程に在籍し、生物共生科学分野で学んでいます。これから、専門知識を身につけたいので、一生懸命勉強しています。私の出身は中



国四川省です。辛いものが大好きです。激辛四川料理で仙台と川渡の皆さんの胃腸を鍛えています。

解 宇 晨

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 水産資源化学
4. 水産食品の安全性及び保存性向上技術の開発
5. 上海海洋大学
6. 卓球
7. 私は中国から来た解と申します。一昨年、特別聴講学生としてに東北大学に1年間留学しました。この1年間の留学生活で、私は日本の先端技術と先生方や大学院生・学部生の皆さまの熱心さと研究の内容を見聞きし、ここで更に学びたいと思うようになりましたので、昨年10月に大学院修士課程に進学しました。これから、いろいろな知識を得られるように皆さんと一緒に頑張ります。



4. Transfer of Agricultural Technology for Farmers

5. ポゴール農科大学(学部)、ブラウイジャヤ大学に在籍中(リンケージプログラム)
6. 読書、水泳、食品加工技術
7. 海外で勉強することが学部を卒業した時からの私の目標でした。日本の先端科学ばかりでなく、文化・特性・生活習慣や礼儀作法といった多くのことを日本から学べると思い、日本で学ぶことを選択しました。日本に来てから5ヶ月が経ちましたが、日本の様々な面に魅了されています。ありがたいことに、私の夫や両親も私の目標をサポートしてくれていますので、修士課程で勉学に励むことができます。

ディア クリスティーナ ジュニッサ イマン ソプラタ Dea Christina Junissa Iman Soebrata

1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程 (ヒューマンセキユリティープログラム)
3. 国際開発学
4. Farmer's Training Centre and its contribution to Sustain Household Food Security
5. ブラウイジャヤ大学に在籍中(リンケージプログラム)
6. バドミントン、読書、外国語や外国の文化を学ぶこと、歌をうたうこと、料理、旅行
7. はじめまして。私はインドネシア出身のDeaと申します。10月に仙台に来ました。来たばかりの頃は気候のせいで仙台の生活に慣れることができませんでした。御存じのように、インドネシアには冬がなく、私は1年中暖かい首都のジャカルタで暮らしていたためです。しかし今では寒冷的な気候にも慣れ、仙台での生活をとても満喫しています。キャンパスの環境も勉強に快適で気に入っています。農学研究科には以前学んだ大学には無かった設備も整っており、良い研究成果を得たいと思っております。皆さん、宜しくお願いします。



沈 晨 晨

1. 中国
2. 大学院博士前期課程
3. 生物海洋学
4. 女川湾における珪藻を食べる鞭毛虫の形態学的研究と生態学的研究
5. 上海海洋大学
6. 読書
7. 私は沈晨と申します。2010年度に特別聴講学生として1年間留学し、2011年の10月に修士課程に入学しました。今、鞭毛虫を培養しています。十分増えたら、透過型顕微鏡で鞭毛虫の内部形態を観察します。趣味は面白い本を読むことで、特にミステリーが大好きです。現在読んでいる本は、森博嗣の『冷たい密室と博士たち』です。いろいろな良い経験をしたかったので、研究と勉強の他にもドラムにも挑戦しています。宜しくお願いします。



プラソジョ バユ スウオンド プトロ Prasojo Bayu Suwondo Putro

1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程 (ヒューマンセキユリティープログラム)
3. 国際開発学
4. Disaste Impact onRural and Agricultural Areas
5. ブラウイジャヤ大学
6. 音楽を演奏すること、カラオケ
7. こんにちは！ 私はインドネシアから来た Prasojo Bayu Suwondo Putro と申します。地方及び農村地域における災害



ディアン アディ アングラエニ エリザベス Dian Adi Anggraeni Elisabeth

1. インドネシア
2. 大学院博士前期課程 (ヒューマンセキユリティープログラム)
3. 国際開発学



の影響について修士課程で学んでいます。ジャカルタに次ぐ第2の都市、スラバヤ出身です。インドネシアでは東ジャワ州政府の公務員として働いています。幸いにも東北大学で勉強する機会を得られたので、在学中は日本について学びたいと思っています。東北大学で学んだ後、私が働いていた州政府を援助・改善するために、学んだことを実践的に応用したいです。

ふあん い んん
黄 懿 儂

1. 台湾

2. 大学院博士後期課程

3. 動物資源化学

4. ヒト腸ムチンの硫酸基除去によるプロバ

イオティクスの新評価系の構築

5. 台湾大学

6. 音楽ライブに行くこと、テレビを見ること

7. 台湾から来た寒がり屋の黄懿儂です。仙台の冬は私にはとても寒く感じますが、走ると暖かくなるので、最近ではマラソンが好きになりました。趣味は、雨宮キャンパス近くの美味しい店を探ことです。何か情報がありましたら是非研究室に立ち寄って教えて頂きたいです！英語も中国語も台湾語も日本語も大歓迎です！



6. スポーツ（バスケットボールやバレーボールなど）
7. 私はモンゴル出身の Ulziibat Bolortuya と申します。27歳です。モンゴル国立大学で学部・修士課程を終えました。来日する前は、モンゴル科学アカデミー生物学研究所に研究者として勤務していました。日本へは2011年4月に来ました。西尾先生のご指導の下で研究できることを大変嬉しく思っております。この留学期間中に、日本語・日本の文化や伝統を学び、日本各地の素晴らしい土地を訪れたいです。

よん ふい いー
楊 惠 尹

1. マレーシア

2. 大学院博士後期課程

3. 植物遺伝育種学

4. Epigenetic study in plant

5. マレーシア国立大学

6. 読書、バドミントン

7. 私は楊惠尹と申します。中国系マレーシア人で、27歳です。クアタランという海沿いの町で生まれました。2011年5月に来日しました。好きな日本の食べ物は味噌ラーメンです。仙台以外では昨年9月にヨネックスジャパンオープン（バドミントンの試合）を観戦しに東京へ行きました。今年は北海道へ行くことを計画しています。日本人はとても頼りになり、親切で、それが私が日本を大好きな理由です。現在、日本語を勉強しており、川内キャンパスで日本語講座を受講しています。博士課程在籍中に流暢な日本語でコミュニケーションが取れるようになれば、日本人学生の皆さんと気軽に友達になれることと思います。



ごお いー じゃえ
郭 熠 洁

1. 中国

2. 大学院博士後期課程

3. 動物微生物学

4. レプトスピラ感染症の発症について

5. 揚州大学

6. 旅行

7. 私は3年前交換留学生として機能形態学分野で勉強しました。日本の生活は困難な面もありますが、それがまたとても楽しいです。私は日本の研究遂行の精神に魅了されますので、今回もう一度日本に学びに来ました。



きむ せ りよん
金 世 怜

1. 韓国

2. 大学院博士後期課程

3. 動物微生物学

4. 大腸菌のL-アラニン輸送体の構造と機能

5. 慶北大学

6. 旅行、映画鑑賞

7. 私は韓国の国立慶北大学の修士課程を修了しました。現在、博士後期課程の動物微生物学分野で勉強しています。韓国とは違う日本の文化を経験しながら研究にも集中して、素晴らしい留学生活を送りたいです。宜しくお願いたします。



ウルジバット ボローテュヤ
Ulziibat Bolortuya

1. モンゴル国

2. 大学院博士後期課程

3. 植物遺伝育種学

4. Identification of Cold Resistance Gene in

Rice

5. モンゴル国立大学



ムハマド ファドヒル シュクリ イスマイル
Muhammad Fadhil Syukri Ismail

1. マレーシア

2. 大学院博士後期課程
 3. 海洋生命遺伝情報学

4. Genetic effects of inbreeding in laboratory population of guppy *Poecilia reticulata*

5. マレーシアブトラ大学

6. 釣り、バドミントン、ラグビー、ジャングルでのキャンプ

7. 私は幼い頃から魚に魅了されていました。学部生の時に魚類学の講義を取り、私は正しい進路を選んだことを確信しました。魚を研究するということは、水中を自由に動き回るこの神秘的な生物について知る良い機会です。研究をしていると、“fish”や“reproduction”という言葉に敏感になります。現在、中嶋正道先生のご指導の下で研究を進めています。私の研究は、少数のグループの魚類の持続可能性を予測する可能性があると思われますし、水産養殖の世界に貢献できればと思っております。



ウラントーヤ
ウラン図雅

1. 中国

2. 大学院博士後期課程
 3. 生物共生科学

4. Relative importance of ectomycorrhizal and pathogenic fungi on seedling establishment and subsequent species diversity of deciduous broad-leaved tree species in temperate forests

5. 内モンゴル師範大学

6. 絵を描くこと、読書

7. 私は中国内モンゴル出身のモンゴル人です。2008年6月、内モンゴル師範大学生命科学研究科で研究生として勉強し、2010年10月、東北大学医学研究科分子生物学専攻博士後期課程に入学しました。2011年10月、農学研究科に転科し、生物共生科学分野の博士課程2年生です。現在は主に川渡のフィールドセンターで研究しています。私は山歩きが大好きなので、川渡での研究は非常に楽しいです。春・夏・秋は、主に山の森林調査をし、様々な興味深いことを見ました。今後の研究生活に対して自信满满です。精一杯頑張ります。皆さん宜しく願います。



張 斯 来
張 斯 来

1. 中国

2. 学部研究生
 3. 遺伝子情報システム学



4. 麹菌有用遺伝子の発現制御機構に関する研究
 5. 中国内モンゴル農業大学

6. 旅行、映画鑑賞

7. 私は張斯来と申します。中国内モンゴル出身のモンゴル人です。2009年に中国内モンゴル農業大学を卒業し、2011年4月に日本にきました。今、農学部の遺伝子情報システム研究室で研究生として勉強しています。留学生活を通じてさまざまな知識を得られることと思います。宜しく願います。

きゆうきよう
宮 嬌

1. 中国

2. 学部研究生
 3. 環境経済学

4. 環境リスクとリスクコミュニケーションに係わる研究

5. 北京応用技術大学

6. 旅行、人とコミュニケーションを取ることに

7. 宮嬌と申します。3年前に北京応用技術大学を卒業し、日本に参りました。出身地は中国の内モンゴルです。日本に来て、仙台イングリッシュセンターで1年半ほど日本語の勉強しました。その後、2011年10月から研究生として環境経済学分野に在籍し、環境リスクとリスクコミュニケーションについての研究をしています。



プイリンギ クライド グラバヴァ
Puilingi Clyde Gorapava

1. ソロモン諸島

2. 学部研究生
 3. 水産資源化学

4. Isolation and elucidation of bioactive compounds from marine organisms

5. サウスパシフィック大学 (フィジー)

6. 音楽鑑賞・ピクニック・水泳・スポーツ観戦。あまり得意ではありませんが、バレーボール・サッカー・バスケットボールをします。人と知り合うことも好きです。

7. 私はPUILINGI Clyde Gorapavaと申します。27歳で、クリスチャンです。パプアニューギニアの東、オーストラリアの北東に位置する、太平洋の小さな国、ソロモン諸島からきました。2011年5月に来日し、専門分野の勉強を始める前に、5カ月間の日本語集中講座を受講しました。現在、水産資源化学分野で佐藤實先生の指導を受けており、2012年の4月から修士課程に入学します。研究については、多くの研究者の関心を集めている分野である、海洋天然物の



せいぶつかつせい けんきゅう かんしん も
生物活性の研究に関心を持っています。これは、豊富な海
ようしげん とそのせいぶつ たようせい めぐ
洋資源とその生物多様性に恵まれた、特にソロモン諸島の
ようとう とうしよこく ほってん のぞ ふん や わたし に
ような島嶼国にとっては発展が望まれる分野です。私は日
ほん とりわけ、仙台の生活を楽しんでおり、学業と日常生活
かつ のなかの社会的・文化的な面の両方で、たくさんの新しい
ことまな おも
事を学びたいと思っています。

りん つおん じいあ
林 中 佳

1. 中国
2. 特別聴講学生
3. 水産資源化学
4. ピプリオの検出方法
5. 上海海洋大学
6. 絵を描くこと、旅行、音楽鑑賞、卓球
7. 私は明るく、人当たりのいい性格だと思います。時間があれば、友達と一緒に買い物に行くのが大好きです。そして、とても寂しがり屋です。美味しいものに目がなく、料理を作るのが得意です。日本には美味しい物がたくさんあるので、いつも太ってしまう心配があります。勉強と実験をするときは、とても真面目で勤勉です。異なる文化を体験し、異なる国の方たちと交友を広げたいと思い、東北大学に留学しています。それでは、頑張ります！



ちよん い ちよ
郑 翊 喆

1. 中国
2. 特別聴講学生
3. 生物海洋学
4. オキアミの脱皮周期とオキアミの上に着している繊毛虫類に関する研究
5. 上海海洋大学
6. バドミントン、写真撮影、料理
7. 上海から来た郑翊喆と申します。約8ヶ月間日本に在住していますが、この時間はとても貴重なものだったと思います。日本の文化にとっても興味を持っており、日本語を勉強しながら自分の専門分野についても一生懸命勉強しています。若いうちにいろいろな経験をしたと思っています。日本に来たばかりで日本語が少しだけ話せますが、研究室のみんなの協力のおかげで楽しく生活をしています。仙台は美しい所で、学習と生活に良い環境です。皆さんよろしくお願ひ致します。



アジザ ユニ ヌルル
AZZIZAH Yuni Nurul

1. インドネシア
2. 特別聴講学生
3. 国際開発学
4. Indonesian Migrant Workers in Malaysia
5. ガジャマダ大学
6. 卓球、国際政治状況、外交政策、人権、日本の文化を学ぶこと。
7. 日本で1年間学ぶ機会を持つことができ、大変うれしく思っています。日本滞在中はできるだけ時間を有効に使いたいです。この新しい環境が気に入っており、新たなチャレンジに取り組んでいます。日本での経験全てが、私自身、家族、そして母国のためになることを願っています。日本での生活に溶け込みたいので、よろしくお願ひします。



デイサ バクストルム
Disa Bäckström

1. スウェーデン
2. 特別聴講学生
3. 環境適応生物工学
4. Mitochondrial gene analysis in cytoplasmic male sterile rice
5. ウプサラ大学
6. ロッククライミング、登山、料理
7. 私は昨年9月25日にスウェーデンから来ました。私の専門は生物学です。仙台での生活を楽しんでいます。今、日本語を勉強しています。難しいですが楽しいです。ポケモンなどの日本のアニメが面白いです。日本の自然がとてもきれいで大好きです。一年間よろしくお願ひします。



平成23年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

■ ラキユラ大学実験医学部 (イタリア) ■

動物生殖科学分野 教授 佐藤 英明

Guido Macchiareli 教授 (学部長) が2011年12月14日にラキユラ大学で開催した International Meeting on Progress in Biology of the Oocytes, Basics and Clinical Insight で動物生殖科学分野佐藤英明教授が招請講演を行った。また、Current Pharmaceutical Design という雑誌で New Frontier in Fertility and Reproduction という特集号を共同で編集し、近々に刊行予定である。ほぼ毎年ラキユラ大学の研究者が動物生殖科学分野を訪問しているが、大学院博士課程の学生が「卵巣卵胞成熟と細胞外マトリックス」と題する研究を行うため、今年4月より3ヵ月動物生殖科学分野に滞在予定である。



動物生殖科学に大学院生・博士研究員として合計3回滞在したことのある女子学生の自宅に招待された時の写真 (女子学生 (右から2人目) の両親、妹及び石、Macchiareli 教授)

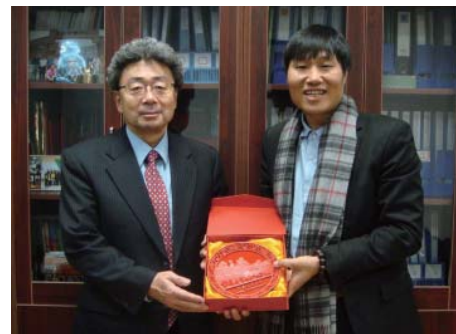


招請講演のお礼としてイタリアで出版された故 Pirro Motta 教授 (ローマ大学名誉教授) の著書が贈られた。

■ 上海交通大学 (中国) ■

機能分子解析学分野 教授 宮澤 陽夫

学術交流協定校である中国科学院有機化学研究所で交流していた王教授が上海交通大学生命科学技术学院に移られたので、現在は、上海交通大学と共同研究を進めている。これは文部科学省国際交流官担当の第14回日中科学技術協力委員会による日中合意プロジェクトのひとつであり「生分解性生体材料の生体内分解評価」という課題研究を進めている。昨年12月中旬に上海交通大学を訪問し研究打ち合わせをして来た。写真はその時のものである。



生命科学技术学院院长 (右) と筆者

■ 台北医学大学公衆衛生栄養学院 (台湾)・ボゴール農科大学 (インドネシア) ■

栄養学分野 教授 駒井 三千夫

● 台北医学大学

まずは、大震災に対して台北医学大学から本学大学院農学研究科宛に多額の見舞金 (¥1,958,145) があつたことをお伝えしたい。学生も含めたボランティア募金ということであるから、台北医大の皆様の気持ちに深く感謝申し上げます。

たい。研究科当局から使い道はまだ知らされていないが、当研究科あるいは関係の被災学生・職員等に有効利用して欲しい。

次の驚きは、震災直後にも拘わらず、台北医学大学公衆衛生栄養学院の大学院生（MI）から、4月か5月に渡日希望の連絡が入ったことである。放射線の悪影響のうわさがあったにも拘わらず、7月1日から約2ヶ月の短期滞在の希望があった。廖偉翔（Mr. Wei-Hsiang Liao）さんである。実際に7月1日から当研究室に入り、研究室員の研究の見学と実践ならびに日本の文化に触れてもらった。具体的には、亜鉛欠乏ラットの実験や食品成分による抗炎症系の実験を観察してもらった。写真は、帰国寸前に青葉城や片平キャンパスを紹介した時の写真である。日曜日で東北大の記念館が閉まっていたのが残念であった。

8月末に無事に帰国して、9月初旬から新しい学年を迎えて勉学に勤しんでいるとの連絡をもらった。早速、次の交流として、2012年3月に別の学生が当研究室を2週間訪問するとの連絡をもらっている。



片平キャンパスの魯迅像の前で、廖偉翔さんと筆者

●ボゴール農科大学



ボゴール農科大学人類生態学学部長をお迎えして

2011年11月11日に、Dr. Arif Satria（Bogor 農科大学学部長、Faculty of Human Ecology。写真左から2番目）が来所された。東京の大学での講演後のようだが、ボゴール農科大学のスタッフが当研究室に2名留学中（Dr. Ardiansyah & Mr. Puspo Edi Giriwono）であることから立ち寄って頂いた。午前中に山谷研究科長を訪問して頂いてから、午後からは米倉教授や同研究室のD3のDeffi Ayu Puspito Sariさんらも加わり、ボゴール農科大学の紹介プレゼンテーションを拝聴した。インドネシアにおいても国際交流に力が入れられてきている状況にあるようであった。会食では、ざつぱらんな会話も弾み、さすがに日本の鹿児島大学で博士号を取られた先生だと感じた次第である。

■ 国立台湾大学（台湾） ■

～東日本大震災と行き違えの台湾出張～

生物海洋学分野 教授 遠藤 宜成

今回の地震と津波のことを知らされたのは、台湾の松山空港に出迎えに来てくれた国立台湾海洋大学の蔣教授からだった。空港で蔣さんと会って、彼の車に向かう途中、奥さんから電話があり、日本で大地震があつて津波で多くの人が犠牲になったという。私は国立台湾大学で開かれる留学フェアに参加して、台湾の高校生をリクルートする仕事（2泊3日の旅程）で台湾に着いたばかりだった。ホテルまで送ってもらおうと早速仙台の自宅に国際電話をかけてみたが全くつながらない。ホテルの部屋のテレビでNHKのテレビを見ることができ、津波のすさまじさに圧倒されていた。その晩は、蔣さんと一緒に日本に留学経験のある人たち数人が集まって晩餐会を開いてくれた。家族のことが心配で落ち着かない時間を過ごした。

翌日の留学フェアの会場では、阪神淡路大震災を経験したという関西学院大学の先生方や外国の大学関係者から声をかけていただいた。台湾のテレビ局が今回の留学フェアではなく、震災について取材に来たが、家族とも連絡が取れないので説明のしようがない。この留学フェアには台湾の高校生が数千人集まるといふ触れ込みであったが、東北大学のブースを訪れたのはほとんど国立台湾大学の大学生であった。彼らはもちろん地震や津波のことを知っているようだったが、大学院での日本留学に関心を持っていた。夕方フェアが終わり、ホテルに戻っても相変わらず電話が通じないのでウェブメールを出してみると、娘から家族は無事との返事が来て、ほっと安心した。その晩は蒋さん夫妻に餃子のおいしい店に連れて行ってもらった。蒋さんは私のいる研究室に留学して博士号を取ったので、仙台には格別愛着を感じているようだ。サバティカルを利用してまた仙台に来たいという。家族が無事であることが分かったので、私もゆっくりと晩ご飯を楽しむことができた。

翌日には日本に発つことになっていたが、午後の便なので朝早く起きて大安森林公園や中正記念堂を散歩した。昼前に蒋さんに空港まで送ってもらう。

予定通り羽田に着いたものの列車や新幹線は動いていないし、仙台空港も使えないということで、結局東京に2泊した後、庄内空港経由でバスを乗り継いで仙台に戻った。我が家では電気はついてはいたが、水道とガスはまだ復旧していなかった。その後数日して復旧し、農学部では4月末から授業も始まった。地下鉄が復旧するまでの通勤の疲れと普段からあまり水を飲まない生活習慣が招いたのか、急性膀胱炎になって2週間入院することになってしまった。以後ずっとアルコール抜きの生活を続けている。蒋さんから台北で開かれた日本応援キャンペーンの写真が送られてきた。今回の大災害に対して寄せられた海外からの義援金で最も多かったのが台湾からであった。



日本応援キャンペーンの写真 (蒋夫妻)

■ しゃんはいかいようだいがく ちゅうごく 上海海洋大学 (中国) ■

すいさんしげんか がくぶん や きょうじゆ さ とう みのる
水産資源化学分野 教授 佐藤 實



にほんがわほうもんだん かんけい でんこうけいじ ばん 日本側訪問団を歓迎する電光掲示板

平成 23 年度の上海海洋大学との学術交流は大きな節目を迎えた。平成 14 年 10 月に農学部との部局間交流協定からスタートしたが、丸 9 年後の平成 23 年 12 月に大学間学術交流協定に格上げされた。締結式には東北大学側から総長代理として木島前副学長、農学研究科から山やのうがくけんきゅう かちやう こばしじ むちやう さ とうのきやうじゆ せいめい か がくけんきゅう か むらもと 谷農学研究科長、小林事務長と佐藤実教授、生命科学研究所から村本きやうじゆ しゅつせき しゃんはいかいだいがく ばんがくちやう がくいんちやう しーいんつうふくきやう 教授が出席し、上海海大学からは潘学長をはじめ学院長、奚印慈副教授らが出席した。潘学長および木島前副学長からは、教員の活発な交流の推進と同時に、学生には短期間の相互訪問制度による交流推進を図り、国際的場面で活躍できる人材養成を図りたいとの考えが出された。

締結式の間では上海海洋大学日本語学科の劉軍教授より、日本語学科学生から寄せられた東日本大震災被災者への義援金が木島前副学長に預けられた。学生らが書いた温かい励ましの手紙が添えられており、感謝したい。東日本大震災直後に上海海洋大学の潘学長はじめ多くの教員からお見舞いと励

ましの言葉を頂戴した。さらには6月には奚印慈副教授らが潘学長のお見舞いの親書を携えて仙台を訪れるなど、大学をあげての支援を頂戴した。学生の交流については、平成22年度の特別聴講学生の解宇晨君と沈晨晨君、研究生の郭晓艳君らは3月9日に仙台を離れ大震災を経験しないで済んだが、平成23年度特別聴講学生の林中佳君と郑翊喆君は1ヶ月遅れで来日したが、元気で学んでいる。今後両大学の交流が活発になることを祈る。



交流協定締結式の様子

■ 揚州大学動物科学技術学院 (中国) ■

機能形態学分野 教授 麻生 久

昨年10月16日から11月2日まで、中国揚州大学より鄧波波 (Deng Bobo) さん、朱建平 (Zhu Jianping) さんと王仁杰 (Wan Grenjie) さんの3名の学生が農学研究科に短期留学の形で訪問された。これまでの留学生は動物学院の学生だったが、王仁杰 (Wan Grenjie) さんは医学院の学生だった。彼らは、応用動物学系の全研究室を訪問し、研究内容の説明を受け、教員及び学生と交流を重ねた。また、川渡農場訪問では研修所に2泊して交流した。学生の受け入れは今年で7年目になるが、毎年各研究室の協力を得て、初めて実行できる内容となっている。

■ 北京工業大学 (中国) ■

農業経営経済学分野 教授 伊藤 房雄

東北大学と北京工業大学は2010年10月に大学間交流協定を締結した。その後同年12月に相手校の代表世話人である趙立祥教授 (2002年本研究科博士課程修了) が来校し、今後の活発な交流に向け、外部資金の獲得を軸とした環境問題の解決に関する共同研究の推進を図ることを確認した。その後東日本大震災の影響もあり今年度は外部資金の獲得が実現出来ていない状況にあるが、今後は外部資金の確保に一層の努力を重ねるとともに被災地の復興に向けた共同研究を企画する予定である。

■ ガジャマダ大学・ボゴール農科大学 (インドネシア) ■

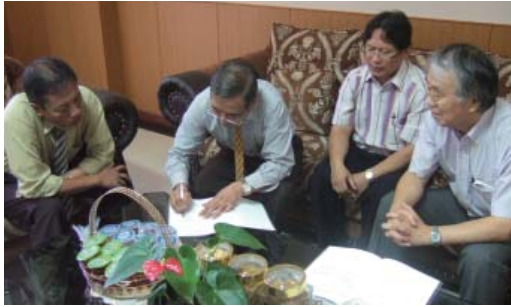
国際開発学分野 教授 米倉 等

大学間協定を結んでいるガジャマダ大学とは、本年度5年間の協定期限が切れるためにその延長交渉を行い快諾を得た。本学では従来、工学研究科が主たる世話部局だったが、今回の延長を機会に農学研究科が世話部局の代表となった。本研究科で博士の学位を取得した二人、農学部社会経済学科のジャムハリ准教授と大学本部で国際交流を担当するきょういんしゆにん よてい ぶんち きょうりやく さん、に現地地で協力を得た。

ボゴール農科大学とは2009年度に大学間協定を結んでいるが、10月には、副学長のヘルマント・シレガル教授を団長とする食糧安全保障に関する政府調査団の訪問を受け、セミナーを開催したほか、岩沼市を訪問し津波被害の甚

大きさと困難な状況をつぶさに視察してもらった。また、後期課程の二人の学生に関し、1年間の同大学への留学や短期の現地調査について協力を要請、経済経営学部長から快諾を得るなど交流の実をあげることができた。

本年度は、学部生の一人が若手 SAP のプログラムで、ブラウイジャヤ大学にお世話になった。上記の二人の後期課程の学生と合わせて、同大学の経済学部および農学部の先生の協力を得て野菜流通および農村経済調査を行った。また、経営学部とはヒューマンセキュリティ・プログラムの一環で、インドネシアの公務員を前期課程に1年間受け入れるリンケージプログラムを実施しており、本年度3人を受け入れたほか、リンケージの1年間の延長と国際文化研究科の参加について協議し合意を得た。



ブラウイジャヤ大学経営学部にて、リンケージプログラムの延長契約調印

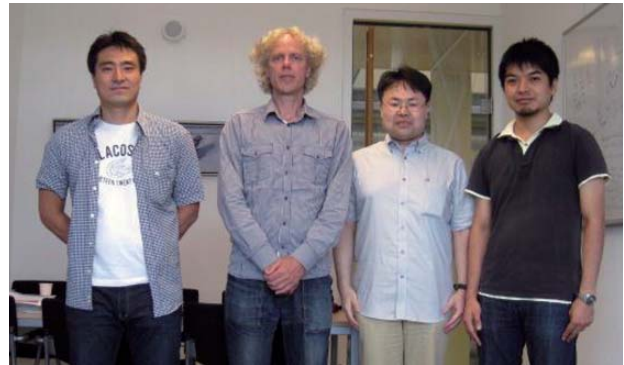


ブラウイジャヤ大学農学部社会経済学科の大学院生と調査の打ち合わせ

■ フローニンゲン大学 (オランダ) ■

動物資源化学分野 助教 川井 やすし

2011年8月26日に、オランダ、フローニンゲン (Groningen) 大学ライフサイエンスセンター、Molecular Genetics (分子遺伝学) 研究室を訪問した。フローニンゲン大学は1614年創立のオランダで2番目に古い大学で、9学部に2万7000人の学生 (うち留学生は世界115カ国、3500名超) が在籍し、2011年9月に公表されたQS世界大学ランキングでは115位にランクされている。また、人口の約5人に1人が学生であるフローニンゲン市は、オランダ北東部のドイツとの国境付近に位置し、オランダ北部地域の経済と文化の中心を担い、人口19万人に対して自転車は30万台と世界一の自転車保有率の都市でもある。



Jan Kok 教授のオフィスで記念撮影。左から2番目が Kok 教授、3番目が筆者。

筆者は2003年6月から翌年の3月まで文部科学省在外研究員として同研究室に留学して以来、7年ぶりの訪問となった。当時のキャンパスはフローニンゲン市の南隣の町ハーレン (Haren) にあったが、2010年の秋にフローニンゲン駅からバスで約15分のゼルニカ (Zernike) 地区に移転している。新研究棟は、タンパク質分子をイメージしたとすることで、とても奇抜な形をしており、いかにもオランダらしい建築であった。しかし、玄関を見つけることから大変で、フロントで研究室の地図を頂いたにも関わらず建物内を右往左往し、最後は通りがかりの職員に研究室まで案内して頂いた。

留学以来お世話になっている Jan Kok 教授と Oscar P. Kuiper 教授は、乳酸菌や *Bacillus* 属細菌の分子生物学分野における世界的な研究者で、当日も普段のアクティブさで淡々と仕事をされていた。両先生、スタッフを含む約20名の方々に前に、自身の研究「ガセリ菌により生産されるバクテリオシン (抗菌ペプチド) の構造と遺伝子解析」について Short presentation を行った。質疑応答では、予定時刻を大幅に経過しての議論となり、多数の真摯かつ貴重な意見・アドバイスを頂戴することができた。ランチ後には、Kok 教授と共に新研究棟内を巡り、総工費は約1億ユーロ (約100億円) で、最新の地熱冷暖房システム導入により光熱費のコストダウンが図られていることなどをお教え頂いた。また、研究室は新しくなったが、実験台の上は当時と変わらない光景が広がっており、各廊下にはコーヒーマー



筆者の Short presentation 風景

カーと、LAN 回線を装備した共通デスクが設置され、コミュニケーションを重視した配置が印象的だった。途中、ライフサイエンスセンターの日本人スタッフ Eriko Takano 准教授 (Microbial Physiology) とお話しする機会や、留学時に席が隣同士だった旧友にも再会し、密度の濃い有意義な時間を過ごすことができた。

余談となるがその夜、Molecular Genetics 研究室の技術職員 Anne Hesseling 氏 (専門は二次元電気泳動) ご夫妻と共に、ちょうど大学の近くで開催されていた舞台芸術祭に足を運んだ。本催しは、日本人アーティストも参加

するなど、老若男女を問わず市民の大きな楽しみの一つとなっており、最終日までにのべ 135,000 人が訪れたとのこと。特に印象に残ったパビリオンは、最新科学の展示建物 (総床面積 1,200 m²超) で、一般市民や子供向けにも関わらず、真核細胞の代謝を各器官の役割と共に解説する巨大なグラフィクスムービー、最新のコンピューター技術、振動発電体験、分子生物学や量子力学等と、内容は非常に高度であった。また、3D プリンターや、特殊な記号を読み取り iPhone/iPad touch 上で化学構造を立体表示する技術の紹介があり、教育、特にプレゼンテーションに利用される日は近いと実感した。オランダでも科学離れが進んでいるとはいえ、子供から大人までが笑いながら科学を楽しんでいる光景はとても新鮮であった。

■ ウプサラ大学 (スウェーデン) ■

複合生態フィールド教育研究センター 生物共生科学分野 准教授 陶山佳久

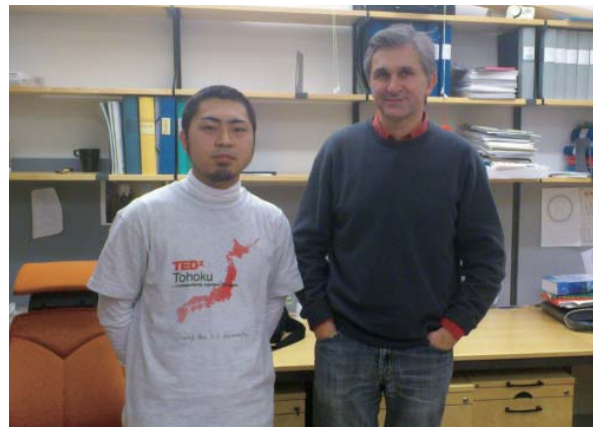
私がスウェーデンのウプサラ大学の研究者との交流を始めてから、およそ 10 年になる。ほぼ同じ頃から、東北大学とウプサラ大学は大学間学術交流協定を締結した関係にある。交流当初から、毎年のようにスウェーデンに渡航して共同研究を進めているが、本年度は 1 度だけ同大学を訪問した。また、これまでの交流をもとにして、当研究室の学部 4 年生である小笠原玄記くんが、1 月から半年間の予定でウプサラ大学に留学し、さらなる交流を進めている。

交流当初から共同研究として進めているのは、湖の底に堆積した土壌中の花粉を材料とした DNA 分析である。この研究では、ヨーロッパ各国の研究者と共同研究を進めるようになるまでに発展し、ウプサラ大学を中心とした国際交流はさらに広がりつつある。これまでにすでにいくつかの成果を発表しているが、最新の成果は科学雑誌 Science 誌に受理され、交流の成果が大きな実を結びつつあるのはうれしい限りである。

今後もさらに交流を深めて共同研究を推進し、優れた研究成果をあげるとともに、人間的な交流を大切にしながら、より充実した交流を続けて行きたいと考えている。



ウプサラ大学の進化生物学センターにて、ギリシャ人の Drouzas 博士 (左)、イタリア人の Parducci 博士 (右) と著者



ウプサラ大学に留学中の小笠原玄記くんと、受入教員の Martin Lascoux 教授



し せつけんがく じっし 施設見学の実施



1月21日、農学部・農学研究所に在籍する留学生を対象に、山形県鶴岡市にある、クラゲの種の保有数では世界一を誇る加茂水族館を見学しました。

以下は参加者の感想です。

きのうぶん し かいせきがくぶん や
機能分子解析学分野

フルデオス グレゴール カールベンテロー

Burdeos Gregor Carpentero

とても楽しくて、素晴らしくて、最高でした！
農学研究科国際交流委員会が主催して下さった、クラゲで有名な加茂水族館への見学旅行は大成功だったと思います。私たち留学生はこの旅行を満喫し、と同時に海洋生物のクラゲの美しさを知りました。さらに、東北地方の反対側、つまり日本海側の東北地方を訪れ、東北の東側と西側の環境の違いを知ることができました。この貴重な催しは、農学研究科で学ぶ留学生同士が知り合い、交流することで旅がより楽しくなると共に思い出に残ります。ぜひ、このような旅行が毎年開催されることを願っています。ありがとうございました。



クラゲの稚魚を顕微鏡で熱心に観察

どうぶつ いでんくしゆぶん や
動物遺伝育種分野

りゅう し いち
陸 拾染

時間の経つは水の流れるように速いものです。日本に留学して知らず知らずのうちにもう1年半になりました。この1年半の間、毎日毎日勉強して、実験をして日常生活を維持してきました。2011年8月に研究室の皆さんと一緒に楽しく山形県に旅行して以来の第2回目の旅行することになり、本当に嬉しかったです。私は大自然や動物が大好きなので、今度の鶴岡への旅行をとっても楽しみにしていました。1月21日の朝8:30に尾定先生、教務係の方々、そして留学生の皆さんと一緒に出発して、車中、皆で面白い自己紹介をしたり、楽しく話したり、庄内観光物産館ふるさと本舗で美味しい昼ご飯を食べたり、綺麗なお土産を買ったりしてから、最後に加茂水族館に到着しました。水族館では、クラゲに関する興味深い説明を聞きながらいろいろな種類のクラゲや魚を見て様々な知識を身に付けることができました。故郷では海がないし、海洋生物はテレビで見ただけですが、自分の目で見る事ができて本当に楽しかったです。来年もこのような機会があれば絶対にまた参加したいので楽しみに待っております。今回の楽しい旅行を主催して下さった先生方に心より感謝します。ありがとうございました。



加茂水族館玄関前で参加者全員による記念写真